



11 課 省略・繰り返し・言い換え

文章としてのまとまりを持たせるために「省略」がよく行われます。省略とは、文章の流れの中で、何を指しているかはっきりわかっている語を後に続く文では言わないことです。そうすることによって言葉の無駄がなくなり、また、文章としてまとまりが出ます。

また、前の文に出てきた言葉を関連する語で言い換えることがよくあります。これも文章にまとまりを持たせるための一つの手段です。

A 省略されやすい場合

◆前の文に出てきて、後の文で同じ語の繰り返しになる場合は省略できます。

例・あきららはまた『こころ』を読んでいる。もう3回も『こころ』を読んだそうだが、『こころ』を)読むたびに新しい発見があるので、何回(『こころ』)を読んでも飽きないのだそうだ。
・先日、あるウイスキー工場へ見学に行った。(ウイスキー工場は)周囲に山々が見え、素晴らしい所だった。

◆前の文に出てきた言葉を「は」で受ける場合、「～は」は省略できます。

例・家の前に車が止まっている。(車は)黒いベンツだった。
・あき子は窓際で本を読んでいた。(本は)前日、本屋で見つけ、迷わず買ったものだ。

◆前の文と後の文の主題(「～は」で表される)が同じ場合、後の文の主題を省略できます。

例・うちは駅から10分のところにある。夜は人通りが少なくなる。(夜は)用心しなければ危ない。
・わたしは最近体調が良くない。(わたしは)仕事が多すぎるのだ。

B 省略されない場合

◆どの言葉の省略なのかかわりにくい場合は、省略しません。

例・木村さんが林さんに荷物を渡した。林さんはとてもうれしそうだった。
(省略すると主語が林さんか木村さんかわからなくなる。)
・この工場では26人の工員と3人の事務員が働いている。工員は、朝8時半には出勤する。
(省略すると主語が工員か事務員か、あるいは工員と事務員なのかかわからなくなる。)

◆主題を省略した文の後、次の文で別の言葉が主題になっている場合、ふつう省略しません。

例・わたしはリン・ブンショウと申します。(わたしは)中国から来ました。(わたしは)今、東西大学の経済学部3年生です。大学は東京から30キロ離れた所にあります。

C 繰り返し・言い換え

◆前の文に出てきた言葉を同じ言葉で繰り返したり、関連がある別の言葉などで言い換えたりします。

例・山田氏は学生時代、金がなく土木工事のアルバイトをよくやったという。労働はきつく、勉強する気力も残らないほどだった。

土木工事のアルバイト・労働=似た意味の言葉

・わたしは子供のときから虫を観察するのが好きだった。何時間でも野原で虫を見ていた。時には精密に虫の絵を描いた。将来は虫博士になりたいと思っていた。20年後、夢は実現した。

虫を観察・虫を見て・虫の絵・虫博士=同じ語

虫を観察・虫を見て=似た意味の語

将来は虫博士になりたいと思っていた・夢=内容の言い換え

練習1 次の文の下線の言葉を省略できる場合は()で囲みなさい。

例 庭に桜の木がある。(桜の木は)祖母の代からこの家にある。

- 1 仕事と生活のバランスを保つのは難しい。仕事と生活のバランスが崩れると体調にも影響する。
- 2 サイレンが鳴った。サイレンは3回鳴った。
- 3 この料理は豆腐と卵で作ります。まず、ボールに豆腐を入れ、はしでかき混ぜて豆腐を崩します。
- 4 「世界どこでもトラベル」という番組はとても人気がある。この番組はクラスのほとんどの人が見ている。わたしもこの番組を毎週楽しみにしている。
- 5 ストレスという言葉は最初に使ったカナダのハンス・セリエ博士によれば、心と体は別々のものではなく、心で起きたことは体に影響を及ぼし、体で起きたことは心に影響を与える。したがって、心身の健康を考えると、ストレスをどう扱うかは大切なことである。
- 6 睡眠にはレム睡眠とノンレム睡眠がある。レム睡眠は、体は休んでいるが脳は覚めている眠りのことである。
- 7 わたしが住んでいる所は小さい村のはずれだ。わたしが住んでいる所は周囲に人家がない寂しい所である。人家は15分歩いた所にやっと1軒ある。



練習2 _____の部分の主語を書きなさい。

1 山田さん、ごぶさたしています。お宅のみなさんは、お元気ですか。おとし^{たく}①お会いしたときには、年内に仕事でスイスに^{ねんない}②行かれるとのことでしたが、その後、またどこかに^{しゅつちやう}③出張されましたか。

実は、わたしも先日、スイスに行ってまいりました。本当に美しい^{ほんとう うつく}④国ですね。あちこち^{あちこち}⑤見て回りました。スイスにいとこが住んでいるので、何かと^{せわ}⑥世話してくれました。いとこは今度は、日本で^{ひき}⑦仕事を^{ひき}するのだそうで、久しぶりに日本に帰れると言って、^{よろこ}⑧喜んでいました。

例：お宅のみなさん

- ①: _____ ②: _____ ③: _____
④: _____ ⑤: _____ ⑥: _____
⑦: _____ ⑧: _____

2 「コピーアンドペースト(コピペ)」という^{ことば}①言葉が^{わだい}話題になっている。「コピーしてはりつける」という意味だ。元はパソコン用語だが、このごろは「ほかの人が書いて、ウェブ上に^の②載せたものを、そのままコピーして自分の^{ぶんしやう}③文章の中に使う」という意味で、^{つか}使われることが多い。「コピペ論文はだめです。自分の言葉で書きなさい」と^い④言っ、大学の先生たちもこれを^{きんし}禁止しているが、なかなか^な⑤なくならない。最近^{さいきん}は不正なコピペが行われていないかどうかを^{しら}⑥調べるソフトが作られているようだ。大いに^{やくだ}⑦役立つと期待される。

- ①: _____ ②: _____ ③: _____
④: _____ ⑤: _____ ⑥: _____

まとめ つぎ ぶんしやう ぶんしやうぜんたい ないやう
次の文章を読んで、文章全体の内容を考えて、□1 から □5 の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

ぼくは、まわりの人があきれてしまうぐらいに、もの忘れをしてしまいます。

たとえば、ぼくが学生に「こういう実験をしてみたらどう？」と言ったはずなのに、一週間後にその実験をしている姿を見て「なんでそういう実験をやっているの？」と訊いたりする。挙句の果てに「その実験はあまり意味がない」みたいなことさえも □1。もの忘れがひどいのは昔からなのです。(略)

もの忘れやド忘れ(注)が増えると思ってしまう理由は、いくつかあります。子どもの頃に比べて大人はたくさんの知識を頭の中に詰めているから、□2 知識を選び出すのに時間がかかる。「大人が一万個の知識の中からひとつを選ぶようなものとしたら、子どもは十個の記憶の中からひとつ選び出すだけだからすぐにできる」というような比喩ができます。

生きてきた上で □3 わけだから、これはもう仕方のないことと言っていいと思います。ド忘れをしていても、その内容を誰かに言ってもらおうと「ああ、それぞれ！ それを言いたかった」とわかりますよね。つまり、ド忘れしている最中でも、その一方で脳は、正解が何かもまた、ちゃんと知っているわけです。つまり、忘れてしまった情報が消えてしまった □4。

それともうひとつ、実は子どももたくさんド忘れをするんです。ぼくも小さい頃からあちこちにものを置き忘れて困った記憶があるのですが、ただ、重要なことは、□5 気にしていない。それが健全な姿だと思います。

(池谷裕二・糸井重里『海馬 脳は疲れない』朝日出版社による)

(注) ド忘れ：よく知っているはずのことを忘れてどうしても思い出せないこと

- 1 1 言うてしまう 2 言われてしまう 3 言わせてしまう 4 言わされてしまう
□2 1 その忘れたことの中から 2 その一万個の中から
3 そのたくさんの中から 4 そのいくつかの中から
□3 1 たくさんのことを忘れた 2 たくさんのド忘れをした
3 たくさんの知識を蓄えた 4 たくさんのことを選ぶ出した
□4 1 わけにはいかない 2 わげがない 3 はずがない 4 わけではない
□5 1 子どもはその記憶を 2 子どもはそのド忘れを
3 大人はその記憶を 4 大人はそのド忘れを